また御弟子四人死罪におこなわる

聖人は土佐国番田という

罪名藤井元彦云々、

生

法然聖人並御弟子七人流罪、

に処せらるる人数事。

あるよし、

無実風聞によりて罪科

僧侶敵奏之上、御弟子中狼藉子細 願念仏宗を興行す。于時、興福寺

歎異抄」

後序

続き

て、辺地にやどをとらんこと。一しながら、直に報土にうまれずしかなしきかなや、さいわいに念仏



(第五十六回) 述

講

幸西成覚房・善恵房二人、同遠流 浄円房備後国、 にさだまる。しかるに無道寺之善題 好覚房伊豆国、行空法本房佐渡国: 大僧正、これを申しあずかると云々 被行死罪人々。 遠流之人々巳上八人なりと云々 生年三十五歳なり。 澄西禅光房伯耆国:

こから出られないでいる。浄土に

名告られて朝廷に提出しました。

流罪以後、

親鸞聖人は愚禿親鸞

いう名前は返上して、

愚禿親鸞と

と名告られたのです。(完)(当寺

こ法話抜粋要約、文責住職釋徹照

世俗の名利追求に戻ったわけでは

の命令で僧をやめさせられたが、

つらねたものであります。 に思うことを悲しみをもって書き

法然上人並びに弟子八人は

四人は死罪。親鸞聖人は行

書物を書いたのです。

唯円が竊っ

か

ながら悲しさをこらえながらこの いうことを得るために唯円は泣き

ない。だから非僧非俗。藤井善信と

安楽房 住蓮房 性願房 西意善綽房

あるべからず。

後鳥羽院御宇、

法然聖人他力本

て『歎異抄』というべし。外見でをそめてこれをしるす。なづけ

ことなからんために、なくなくふ 室の行者のなかに、信心ことなる

申状、于今外記庁納云々 然間以禿字為姓被経奏問畢。 流罪以後愚禿親鸞令書給也 親鸞改僧儀賜俗名、仍非僧非俗。 二位法印尊長之沙汰也。 彼御

於無宿善機、無左右不可許之者也。 右斯聖教者、為当流大事聖教也。 (真宗聖典六四一~六四二頁) 釈蓮如御判

年七十六歳なり。 所へ流罪、 るなり。

親鸞は越後国、

罪名藤井善信

光照寺寺報

発行所 真宗大谷派 弘興山 宗教法人光照寺

さいたま市北区別所町102-2

電話:048-651-2781代 FAX: 048-651-2753

E-mail yasuragi@beige.ocn.ne.jp ホームページ http://koshoji76.jp

とをしてはならない。

同一信心と

仏はしても、信心が違うというこ

いた念仏者の中に、

同じく念

とどまってしまわなければならな ることが出来ないで方便の浄土に 頂きながら、真実の報土に生まれ 終わってしまう私達が、 自力のこころで参った信心で、 いなく信ずることが出来ないで、 いということ、つまり、 にこのお念仏の世界に導き入れて お念仏の教えに遇うことなく命 ₹331-0821 さいわい 本願を疑 発行人 住職 池田孝 そ

わめて悲しいこと。親鸞聖人 か生まれない、そのことがき の教えを同じところで聞かせ







盂蘭盆会法要 八月十日(土)午前・午後 厳修

子供会報告

似は3百

よう宜しくお願い

田孝三

郎

(前副 申 万を

住

、護持に皆様

のご協

賜

哀悼の意を表します 通 のご功労を偲び、 が浄土へ還帰され 照 夜四月十日 寺 年三 開 基 月三十 住 職 + 池 念仏合掌して 田 日 ました。 日 孝 15 命終 郎 に葬儀を 七七 宷 生

めましたことをご報告申し上げ

ます。 す し上げます。 変お世話になりましたこと感謝申 (を絶やさないよう歩んでい げます。 た皆様方におかれましては、 旗印を振って頂 列頂きました皆様方にはお忙し 仏法弘まれかし、 ご会葬賜り重ねて御礼 生前· 仏法弘通、 中に出遇わせて頂きま また、 いたその熱い情 念仏興隆 通 念仏よ興 !夜葬儀にご きま 审 ħ 大 法

本年、 宜 が、今後とも変わらずご厚 才でいたらない点が多々あ でご報告申し上げます。 修習を修め、 しくお願い申 二月二十八日付、 光照寺 世 住職となりました し上げます。 住職池田孝三郎 本山の 誼 浅学菲 ります

たり、 てい 号に慣れるまで相当かかると思っ 和と元号が変わりました。 本年、 . ます。 西暦と併記してみたり Ŧi. パソコンで平成 月一 日より ・平成 この でと打 から あ 令 元

上げます。 |職| 心りま の程、 合掌 もあり、若干の寂しさを感じます。 う 退位と新天皇の即位をするとい で時代の流れや節 ると元号が変えられた時代だっ 明 い点は良いのですが、 治以前は災害や内乱などが起 超高齢社会を象徴することで います。 に」などと云って 教徒は仏暦で記載す 現代は 目が分かりやす 世 天皇の生前 ました。 元の制 れ

は うまくバトンタッチができる訳で 0 き いのち いのち」だよ、 るところに落とし穴がありま いの範疇で捉えるように からないのに、 の看護を得て畳で死を迎えれば 前も書きましたが、 ありません。人間の欲望願い 人が生前に世代交代して後者に 天皇の退位即位のようにすべて 寝たきりではなく、 通りにならない の願いに生きる歩み よう。 という分別を超 生と死を自分の いつ死すか 健康で長 「生と死」 ある程 本当に になって 頂 いいた は、

す。思い 申 思 分 最高だ」ということ。 度 はじまるのでし 生きることの実感を与え、 17 以 えたものさしに遇うことが 亡き人を偲び、 お盆法要は一 しましょう。 部 制にて厳 緒に 修致 お 念仏

す。

岡田ノリ子

0) 看

す。

多数

のご参詣をお待ちして

ります。

住職

照

身に に 来 生きるということ』 流 0 添 1 本 1) 続 願 け は る 地 平野 F 風 0 水 より 0 ょ 修

< に 中央 う 映

念佛をとなえて何 ŋ

佛の用きだと思います。それからせていただきました。これがお念 わ軽くなり、 とうに不思議、 を申させて戴いていましたらほん くれたのでしょう。 な私を息子がこの教えに導びいて 縛られて何にもかもい と。碍り多く、 さばそのままたすけ取って捨てな ひもがプツンと切れ、 で昼夜もわからなく体中をひもで た。それはまるでくらい暗室の中 ない辛い地獄のど真ん中にいまし 長男を亡くした時、 しますか。親鸞は信じてお念佛申 相も変ってしまいました。 ´死ぬに死ねない生きるに生きれ 阿弥陀様に感謝感謝でござ よ、ただ念佛申すことが救いだ 全く違う世界に出さ 体中縛られてい 罪深い私は大切な 夢中でお念佛 悲しみのあま か変った気が 体がふわふ やになり顔 そん た

子供会 「ポニークラブ」報告

て工作をし、

ボランティアの方に

花まつり & 歴史と民俗の博物館

大塚 陽子

色紙に折り紙で折ったものを貼 を食べた後、 民俗の博物館へ行きました。昼食 甘茶をかけ、 迦様の誕生をお祝いし、 九名の参加にて、 月二日 を読み聞かせした後、 子供達の自己紹介からお釈 季節のアートという 紙しばい 勤行後、 大人十名小人 **ク**うまれた 花御堂に 歴史と 前坊守

> 達は、 展示の説明も聞きました。 ランティアさんに話しを聞い 子の展示の説明を聞いた後、 昭和初期当時のくらしの道具や様 昭和の時代にタイムスリップし 、埼玉県内に造立された板碑の、鎌倉時代から江戸時代にかけンティアさんに話しを聞いた 昭和初期頃の遊びを体験し 大人は、近代の時代をボ

なり、 たような場所で、 次回の子供会は八月二十日(火) 皆様のご参加お待ちしてい 有意義な一日でした。 歴史の勉強にも



本堂にて

博物館にて











甘茶かけ



















敬弔



悼の意を表します。 前のご功労を偲び、 成三十年六月十八日還浄七九歳)生 • 三輪民子様 (護持会副会長)、 念仏合掌して哀

●法要のご案内

前・午後の二部厳修 ●盂蘭盆会法要 ●秋季彼岸会法要 九月二十三日 八月十日 (土)、 午

(月) 午後一時三十分より厳修

●光照寺護持会総会 (専光寺住職)、午前十一時より厳修。 一十七日(日)講師は本明義樹先生 報恩講兼住職継承奉告法要 十月

館主)。アトラクションもあります。 ● 親鸞聖人のみ教えに聞く会 ●聞法会のお知らせ

講師は佐々木玄吾先生(いずみ会館

八月三十日(日)午前十時より開催。

四時半。『教行信証』を学んでいます。 教授)七月二十四日、 講師は延塚知道先生(大谷大学名誉 午後一時半~

七月二十八日、

当持参して下さい。 信偈讃仰』穴を学んでいます。 木師と住職の担当月別。細川巌著『正 日、午前十時~午後三時。講師は佐々 九月十六日、十月五 お弁

我聞の会

七月十六日、 九月十日、 十月二十

> 巻) (延塚知道著)。 原祐善著)。「無量寿経に聞く」(下 ブテキスト「無量寿経に聞く」(松 H 「真宗の簡要」(前住職著)、サ 午後二時~四時まで。 講師は住

微風学舎

のことば」「真宗の生活」。 三日、十月十五日。 生不退の視座-サブテキスト まで。講師は住職。親鸞における現 六月二十四日、七月二十二日(午後七時~九時 今日 九月

講師は四衢亮氏。 月十二日、二〇二〇年二月二十日。 午後一時三十分~四時まで。会場は ● 真宗に学ぶつどい(埼玉親鸞教室) 心寺 (浦和)。八月三十日、十二

●お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意 絡下さい。 住所・電話番号変更の際は必ずご連 下さい。宜しくお願いします。

俳句·川

仰ぎ見る北信五岳夏兆す |界史を紙魚も読みしか読みにくし の程を知りし溜息麦の秋 吉澤 光昭

世 身

恒

夢でいい星から蛍とんでこい 米寿近しまだ閂が外せない

短歌(詩

出 恒

親子孫そろって上る動物園 花ぐもり汗かき上る家族には 弁当広げ食事のことば オランウータンマント広げる

佐々木

威大なる実行力と熱の人 逝きしあなたのご恩偲ばる

赤秀 品枝

花冷えの読経の中を逝きし同朋 春なのに寒さと嵐と桜花 タバコとライター柩に入れて 別れの涙胸にせまりて

篠原

朝八時連休カフェは人まばら

孫会いたさに都心娘の家

動物園に着いたのは十一時過ぎで

言われた。十時三十五分会館出発。 で歌った。母が好きな歌でしたと

二メートル自前大筆しょい参加 旅先で出逢い四十二年たち 森ビルで発明の事スピーチす 声はうわずる足宙にうく 見捨てぬ夫や南無阿弥陀仏 大きな文字を若者と書く

た。昼食の後、

記念写真を撮って

家族毎に好きなコースで下

まで一時間余り汗をかいて上っ あった。そこからオランウータン



紺碧の日本海に沈む陽よ 葉の桜を心待ちにせし友は 二十七回忌の妻のふるさと 旅立って行く開花の前に

佐々木 玄吾

歌をスマホで聞いて、 りにいらっしゃる」島倉千代子の 親鸞さまはにこやかに 私のとな せつつ わたる朝の窓 のお話は「しんらん様」「そよ風 に集まり勤行した。お母さん講師 への遠足である。午前十時に会館 いずみ会館子ども会 四月の子ども会は多摩動物公園 南無阿弥陀仏となえれば 働く手のひら合わ 後でみんな



安曇野の夏 山田 邦興 画